

(様式1)

大学名	東京大学	学問分野	人文科学
専攻等名	大学院教育学研究科総合教育科学専攻・大学院情報学環学際情報学専攻・社会科学研究所比較現代社会部門		
拠点のプログラム名称	基礎学力育成システムの再構築		
拠点リーダー氏名	金子元久	所属部局・職	大学総合教育研究センター・教授
プログラムの概要	本プロジェクトは、基礎学力について基礎的理論的な検討を行い、大規模調査を通じて実態を解明するとともに、アクション・リサーチや国際比較を通じて幅広い視野から分析をおこない、基礎学力育成システムの再構築に寄与することを目的とする。		
拠点形成の目的・必要性	グローバル化・知識社会化の中で個人の基礎的知的能力は、個人や社会の発展にますます不可欠な要因となっている。しかし他方で、学習する側の意欲自体は弱体化し、学力形成の場となる学校と授業が経済社会の変化の中で弱体化して、従来の学力水準の維持さえもが困難となりつつある。しかも新しく必要とされる「学力」の内容については、研究上も社会的にも効果が必ずしも得られているわけではない。これは日本だけではなく、OECD諸国に共通の問題となっている。社会全体が新しい学力に一定のイメージをもち、その形成システムを構築する作業に参加することが必要である。そのための問題点の整理と基礎的な調査分析が研究に要請されている。		
研究拠点実施計画	上記の要請にこたえるために三つの基本エッセツを設定する。(1)学力基礎調査・分析エッセツは、A)基礎学力の概念について再検討し、B)小中高生を対象とした大規模な調査、その一部についての継時的な追跡調査をおこなうとともに、C)高等教育の接続の視点からの検討のための「大学連携ボード」を設置する。(2)学校機能分析エッセツは、A)現代の学校の問題点を理論的に分析し、B)学区、学校について詳細な参与調査、アクション・リサーチを実施するとともに、C)学校管理者・教員とともにこうした理論・実証分析の実践的な意味を検討するために、「学校・教師ボード」を設置する。(3)代替システム評価エッセツは、A)現在の公教育制度の問題点を分析し、それに代わる複数のオルタナティブを設定し、その評価を行うが、B)その基礎として各国の教育改革とその社会的帰結を調査し、C)他方で設定されるオルタナティブについて中央・地方の政策関係者と意見を交換する「政策ボード」、および国際的な研究連携を進めるための「国際ボード」を設置する。これらを総合して国内、国際シンポジウム等を通じて社会に発信する。		
教育実施計画	学力問題に関する次世代の中核的研究者を養成するために、上記の研究活動に大学院生をポスドク、TA、RAとして積極的に参加させ、調査の設計、集計、分析などを主体的に経験させるとともに、学位論文などの研究成果に至らせる。同時に各国との国際的な共同研究の場にも共同研究者として参加させることによって、国際的な協力をおこないつつ研究を進める態度を形成する。これには留学生も積極的に加える。 また現職教員および教育行政関係者に対する専門職教育は、理論や分析方法の習得を基礎としながらも、受講者が現実に行われている実践を題材として、それに分析的な反省を加えるような参加的な教育が必要とされる。基礎学力の形成という現実的な課題に総合的なアプローチをすることによって、そうした教育課程を開発する。		

21世紀 COE 『基礎学力育成システムの再構築』 イメージ図

